

高齢ホームレスを見回り

高齢化しているホームレスを支援するため、厚生労働省は来年度から、看護師など医療の専門職でつくるチームが、地域を巡回する事業を各地で始めることになった。長期間、路上で暮らす中で、疾患や障害など複数の問題がある人も目立つ。関係者は「きめ細かなケアを継続的にできれば、路上から抜け出せる人が増える」と期待する。

冷え込んだ11月下旬の夕方、防寒着に身を包んだ看護師や医師ら4人が、ホームレスの人がいる公園や路上の見回りを始めた。一体調、「どうですか」と一人一人に声を掛け、血圧を測る。5分程度のやりとりの後、「良かったら相談に来てください」と呼び掛けた。これは東京都台東区が、路上生活が長い人をケアしようと、2016年春から毎月行う巡回事業。こうした取り組みが、厚生労働省の新しいモデルケースと言えそうだ。

厚生労働省、来年度から新事業



路上に段ボールを敷いて横になっていた男性を診察する医師の大脇さん(東京都台東区)

疾患・障害…複数の問題に対応

医療チームが継続ケア

の大脇甲哉さんは「全国的にホームレスの人数が減ってきた中で、今も路上に残されている人は、心身に問題があるケースが珍しくない。いかに信頼関係を築き、息長くケアできるかが鍵です」と話す。

高齢、長期化の傾向は全国に共通する。厚生労働省が16年10月に行った全国実態調査では、ホームレス

ホームレスの年代別内訳の推移

※厚生労働省調査による

●2007年 40歳未満 4.5% 70歳以上

40代	50代	60代	70代
10.6	42.7	34.8	7.4

●12年

3.8	11.8	29.2	42.3	12.9
-----	------	------	------	------

●16年

3.4	8.9	22.0	46.0	19.7
-----	-----	------	------	------

血圧や血糖値が異常に高い例も

厚生労働省による全国調査では、ホームレスの数は2003年の2万5296人から減る傾向で、17年は5534人。ただ近年は減少幅が縮小している。長期間、路上で生活する人には、血圧や血糖値が異常に高いケースが少なくない。森山美知子教授は、その原因として、屋外で過ごすストレスや、頻度・内容に偏りが大きい食事、アルコールの摂取などを指摘する。保護施設やアパートに入居しても、孤立したり生活上の問題を解決できなかったりして、再び路上に戻る人もいる。

の平均年齢は61.5歳と初めて60歳超に。路上にいる期間は「10年以上」が34.6%に上った。民間の支援団体による調査でも、精神疾患や知的障害、多重債務などの福祉士など、3人のチームによる巡回を想定しており、実施する自治体に人件費の一部を補助する。

大脇さんは「医療職が、実績のある地元の支援団体とうまく連携すれば、比較的スムーズに巡回できるのではないかとみている。広島市内では、慢性疾患に詳しい看護師らのグループが、広島県社会福祉士会などと協力。06年からほぼ週一回、ホームレスの全身状態を診断、必要に応じて医療機関につないでいる。当初から関わる広島大学院医歯薬保健学研究所の森山美知子教授は「重症化して救急医療や入院が必要になれば、国の医療費の増大にもつながりかねない。保健指導や病気の早期発見をしながら、路上から抜け出せる道を探っていく」と話す。